

プロジェクト概要およびロードマップ

1. 提案の背景と目的

日本発の革新技术であるペロブスカイト太陽電池（PSC）の普及には、単なるインフラ設置にとどまらず、地域住民や自治体はその価値を日常の中で「五感で体験し、受け入れる」ための社会的装置が不可欠と考えます。

本プロポーザルは、35年の国際エンターテインメント運営ノウハウ（ソフト）と、JPSCが先導する最高峰のPSC技術（ハード）を融合させ、人口減少やエネルギー問題を抱える地方自治体に「文化主導型の自律分散型都市」を逆募集・公募形式で社会実装する国家級プロジェクトの提案です。

2. 社会実装3カ年ロードマップ

ネオパストラル（新・田園郷）という本構想は、「エネルギー × エンターテインメント」を軸に、3年間でフェスから生活インフラへと数珠つなぎに社会定着させるモデルです。

- **【1年目：音楽フェス（2027年始動）】**～五感による技術認知と防災訓練～
言葉や国籍の壁を越えて多様な人々が集う国際音楽フェスを地域で開催。
 - PSC実装：会場の仮設テントやステージインフラへPSCを全面的に導入し、「100%オフグリッド発電」による興行を実証。
 - 社会課題解決：地域の高齢者や在住外国人を巻き込み、フェス運営の動線を活用した多言語対応の「防災避難訓練」を同時検証します。
- **【2年目：観光リトリート】**～日常空間への建材一体型PSCの実装～
1年目で生まれた賑わいと関係人口をベースに、地域の長期滞在インフラを整備。
 - PSC実装：街中の「空き家」をリノベーションし、窓ガラスや外壁に「建材一体型PSC」を導入。景観維持と建物の発電所化を両立。
 - 社会課題解決：リノベーション空き家を音楽イベントのサブ会場やサテライトオフィスとして活用し、関係人口の定住を促進します。
- **【3年目：健康・教育】**～地域インフラ化とノウハウの全国展開～
3カ年の集大成として、技術を生活と学びの仕組みへ完全定着させます。
 - PSC実装：曇天でも発電するPSCの特性を活かし、地域独自の「見守りIoTインフラ（健康）」を構築。
 - 社会課題解決：次世代の担い手を育てるため、「PSCの正しい施工方法」や「AI防災」を学ぶ国際サマースクール（教育）を、音楽イベントと連動したエンタメ性の高いワークショップとして開催。得られた地方創生ノウハウを全国の自治体へ水平展開し、広域ネットワークを構築します。

内閣府プラットフォームとの連動および推進体制

1. 内閣府施策「夏のマッチング強化祭」とのタイムリーな連動

内閣府「地方創生SDGs官民連携プラットフォーム」において、『官民連携 夏のマッチング強化祭（2026年8月31日～9月25日）』が開催されます。

本キャンペーンの重点テーマの筆頭には、本構想の核である「NO.1 地域の資源を磨く『観光振興』～訪れる人に魅力あるまちづくり～」が指定されています。

本タイミングに合わせ、JPSC様（ハード）とワールドプロジェクト・ジャパン（ソフト）が共同プロポーザルとして本構想をプラットフォーム上にソリューション登録（逆募集）することは、国の方針と合致した説得力の高いアプローチとなり得ます。予算未定の検討初期段階にある全国の自治体の潜在ニーズを掘り起こす大義名分として、この強化祭を活用したいと考えています。

2. 出口戦略としての「官民MEET広島」への展開

さらに、2026年10月30日（金）には、自治体・省庁と民間事業者が直接対面して地域課題を話し合う「官民MEET広島」の開催が予定されています。

マッチング強化祭で関心を示した自治体や、「インフラ・IoT」「地方創生」の課題を抱える西日本の自治体に対し、JPSC様と共同で具体的な社会実装の商談・意見交換を仕掛ける「リアルな出口スケジュール」も検討に値するでしょう。

3. 推進体制と「余白」の設計

1. ワールドプロジェクト・ジャパン（提案者）：

これまでの国際音楽交流・大型イベント制作実績をベースに、1年目のフェス構築、および全体のソフトシナリオの指揮、多言語運営、自治体との初期ワンストップ窓口を担います。

2. JPSC（共同提案・技術主導）：

実社会へのPSC導入における製品供給、設置・施工ノウハウの提供、および技術的な監修を主軸として担っていただきます。

3. コンソーシアム（余白の活用）：

2年目以降の観光・健康・教育の本格展開に向け、本構想に賛同する専門家や、今後JPSC様に集う建設・PPA事業者等の会員企業を巻き込んだ「民間共同実行委員会」を随時組成し、オールジャパンの布陣へとスケールアップさせる「余白」をあらかじめ設計しています。

実績および合意形成アセット

1. 提案者の専門性とイベント制作実績（抜粋）

本構想のソフト面を牽引するワールドプロジェクト・ジャパン代表・黒坂洋介は、35年にわたり国際音楽交流および大型イベントのプロデュースに最前線で携わってまいりました。一過性のイベントに終わらせず、地域住民を巻き込んだ持続可能な「コミュニティ形成」を行うための現場ノウハウを保有しています。

- 国際音楽祭の企画・プロデュース実績
 - ニューヨーク吹奏楽祭（カーネギーホール）の制作・運営
 - 環太平洋音楽祭（ホノルル）／オーストラリア国際音楽祭（シドニー）のプロデュース
 - 『Monterey Jazz Festival in Noto』（石川県七尾市和倉温泉）の12年間にわたる総合プロデュース
 - 『国際ジャズオーケストラ・フェスティバル（ステラジウム）』の総合プロデュース
- 国家級式典・国際大会の運営実績
 - シドニーオリンピック開会式：世界21カ国2000人によるマーチング演奏・日本代表団プロデュース
 - 北京ユニバーシアード開会式／北京オリンピック公式公演（2008年）：多国籍混合バンドの編成・運営

2. 推進を支える独自アセット：摩擦ゼロの「合意形成シミュレーション」

地方創生や新たなインフラ導入において障壁となりやすいのが「地域住民・自治体・民間事業者」の間の利害調整や合意形成（コンセンサス・ビルディング）です。

当社は、これらの異なるステークホルダーがワンチームとなるための独自の次世代型対話シミュレーションエンジン「スパイラログ」を考案しています。

プロジェクト推進の各フェーズにおいて、関係者の意見をデータ化・可視化し、対立を減らし、スピーディな意思決定を地域にもたらすコミュニケーションインフラとして機能させます。これにより、自治体側の意思決定遅延リスクを低減し、3カ年計画の遂行をサポートします。

3. 技術的監修・フィードバックの要請（専門家への問いかけ）

本提案の起案者であるワールドプロジェクト・ジャパン（代表：黒坂）は、国際音楽交流やエンターテインメントの現場構築（ソフト）の専門家ですが、ペロブスカイト太陽電池（PSC）の技術的な専門家ではありません。

そのため、本プロジェクトにおけるエネルギーの基本導線として想定している、

【創エネ】：本番数日前から、屋外の光を軽量PSCシートで高効率に電気に変換

【蓄エネ】：精製したクリーン電力をイベント用大容量蓄電池ユニットに貯留

【活エネ&循環】：本番当日、その電力で屋内ステージを完全オフグリッド駆動。さらに、そのステージの演出照明の光を屋内に配置したPSCで吸収し、エネルギーを循環リサイクルさせる

という「創エネ ➡ 蓄エネ ➡ 活エネ・循環」の一連の流れについて、現在の技術水準、あるいはJPSC様の会員企業様が保有するアセットを鑑みて、どの程度現実的かつ効果的なショーケースとして構築可能か、専門家である皆様から技術的なフィードバックをいただきたいと考えております。

弊社の持つ「予算（内閣府プラットフォーム等）の獲得および自治体開拓の現場力（ソフト）」と、貴協議会が持つ「PSC社会実装技術（ハード）」の役割分担のもと、本構想とともに磨き上げ、すぐれたプロジェクトへ昇華させるために、意見交換の機会をいただけますと幸いです。